

# 伝統的な言語文化の教材開発に関する一考察

—ICT を活用した品詞分解—

橋本 美香\*1

## 要 旨

国語科の教員養成において、大学生の伝統的な言語文化の教材開発を行うために必要な言語運用能力を向上させるには、古典の解釈力の向上が必要となる。古典の解釈の基礎として、文法理解が欠かせない。そのためには、品詞分解を正確に行える必要がある。本稿では、国語科の教員養成において、ICT を活用した文法理解のための品詞分解の有効性の報告を行うことを目的とする。

Keywords : 古典文法, 品詞分解, Web 茶まめ, 形態素解析  
classical grammar, part-of-speech decomposition, Web Chamame, morphological analysis

## 1. はじめに

国語科の教員を養成するに当たって、言語運用能力の涵養が必要となる。このことは、伝統的な言語文化においても同様である。また、教員の古典の実践力向上をサポートする仕組みの構築の必要性が顕在化してきており、古典教育と教育研究の架橋と教育現場への還元が今後の課題であるとされる<sup>1)</sup>。さらに、教師に求められる力量として、①(教授・学習材)分析力、②(年間計画/単元)構成力、③集団(統率)力、④教室対応力、⑤(学校)組織(対応)力、⑥臨床力、⑦展望力(个体史・歴史・国際)、があるとされる<sup>2)</sup>。本稿では、「①(教授・学習材)分析力」について、伝統的な言語文化を指導するための教材の分析力を涵養し、古典の意味内容を理解するために必要となる文法理解について ICT の活用を行う方策を提案する。

## 2. 小学校での伝統的な言語文化の課題

中学校の伝統的な言語文化において、小学校の学習との接続を図ることの重要性が示されている<sup>3)</sup>。また、古典については、教師の姿勢と学習環境の設定が重要であるとされており、小学校の授業で積極的に古典教材が導入された結果、「古典嫌い」に陥った児童も少なくないとされている<sup>4)</sup>。また、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」において、小学校では古典学習が言語文化を積極的に享受し、社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、古典に対して興味が高まらないことや、目的や意図に応じて情報を整理して文章にすること、筆者の意図を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることなどに課

---

\*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

題があることが指摘されている<sup>5)</sup>。このような状況を避けるためには、小学校の教員養成においても、伝統的な言語文化についての深い理解が必要となる。そのためには、大学において教材開発に関する指導が必要となると考える。

### 3. 古典教材の解析

言語文化とは、言語そのものであり、生活であり、芸術であると定義されている<sup>6)</sup>。そのため、古典の語彙に関する知識の習得は、小学校の教員養成において、必須と考えられる。古典教材について、『枕草子』、『徒然草』などが定番教材となっており、音読やリズムを味わうことが学習の中心になっている。しかし、すでに指摘されているように、古典を学習する楽しさや学習する意義を感じさせる指導に課題があり、教科書以外の副読本で「伝統的な言語文化」の世界と表現を理解し、学習の充実を図る必要がある<sup>7)</sup>。

一方で、小・中学校の教育内容の主な改善事項として、「④伝統や文化に関する教育の充実・古典など我が国の言語文化や、県内の主な文化財や年中行事の理解、我が国や郷土の音楽、和楽器、武道、和食や和服などの指導を充実させたこと」<sup>8)</sup>とある。そのため、固定化された教材だけの指導とすることはできない。したがって、国語科の教員養成のための指導において、自律的に多様な言語文化、文化財などの古文を原文で理解する力を身に付けさせる必要がある。そのためには、まず、品詞分解を行い、語彙の分析ができることが最低限必要となる。しかし、光村図書の3年生下「短歌を楽しもう」の単元を例に挙げると、大意、語句、語法の要点が示されているだけであり、和歌一首の品詞分解の説明はなされていない。

### 4. 日本語歴史コーパス

語彙の分析について、「日本語歴史コーパス」を使用した教材開発と試行的実践は、新たな伝統的な言語文化のアプローチとされている<sup>9)</sup>。「日本語歴史コーパス」では、それぞれの語彙について品詞も提示され、国語科の教員養成のための指導でも運用することが可能なものであると考える。コーパスとは、文章を大規模に収集し、コンピュータで検索できるように整理されたデータベースのことである<sup>10)</sup>。国立国語研究所では、「日本語歴史コーパス」をもとに、小・中・高等学校の教科書の教科書が収められた教科書コーパスが作成されている。これを使用することができれば、教科書の本文の検索が可能となる。また、国立国語研究所では、古典教育について中学校・高等学校の生徒を対象とした「日本語歴史コーパス」の学習指導法の開発が行われ、今後、古文単語集、文法集や辞書などの設計をすることが可能となるとされている<sup>11)</sup>。しかし小・中・高等学校の教科書のコーパスは公開されていないため、現状では国語科の教員養成の場面で、学生が使用することは叶わない。

### 5. 形態素解析を活用した教材研究

「日本語歴史コーパス」と同様の解析が自身できるツールとして、国立国語研究所の「Web茶まめ」がある<sup>12)</sup>。これは、自身のPCで解析ができるソフトウェアである。特徴として(1)

見出し語として「短単位」という揺れの少ない齊一な単位を採用している、(2) 語彙素・語形・書字系・発音系の階層構造を持ち、表記の揺れや語形の変異をまとめ上げることができる(3) 個々の見出し語に語種やアクセント型などの豊富な情報が付与されているという特徴を持つ。解析に当たって、時代によって異なる語彙について、それぞれ辞書があるため、上代から近代までそれぞれの語彙についての運用が可能である<sup>13)</sup>。これにより、見出し語、品詞、語種などの形態論情報を得ることができ、本文の特徴を明らかにすることができる。短単位とは、現代語で意味を持つ最小の単位のことである。語彙素は、語形・表記・発音の変異を考慮せず、意味・文法機能が同一であるとみなしうるものに同一の見出しを与えたものである。語形は、語形基本形・品詞・活用型の属性によって示されている。このように、先述の「日本語歴史コーパス」と同様の形式で表示され、品詞ならびに活用型も提示されるため、国語科の教員養成の指導においても運用が可能である。

## 6. Web 茶豆を活用した形態素解析

先述の光村図書3年生下「短歌を楽しもう」の單元には、「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」(古今和歌集 169 番歌)の歌が採られている。この歌は、学習指導書<sup>14)</sup>において出典として『日本文学全集 11 古今和歌集』<sup>15)</sup>を引用している。しかし、教科書で取り上げられていない地域に残る和歌や伝承や説話などについては、すべてがこのような全集に網羅されているとは限らない。たとえば、本学の所在地である岡山県には、平安末期に『百人一首』にも登場する西行法師が詠んだ以下の和歌がある<sup>16)</sup>。

西国へ修行してまかりけるをり、こじまと申す所に、八幡の祝はれたまひたりけるに、こもりたりけり、としへて又そのやしろを見けるに、松どものふるきになりたりけるをみて

むかし見し松はおい木に成りにけり我がとしへたるほどもしられて(山家集 1145)

これは西行が昔、児島の八幡に参籠した時に見た松がすっかり老木になったのを見て詠んだことが詞書から分かる歌である。この歌について学習する場合、現代語訳も存在するが<sup>17)</sup>、手元に必ずしもあるとは限らず、先述の国立国語研究所の「日本語歴史コーパス」の本文である『新編 日本古典文学全集』(小学館)には採録されていないため、現代語訳などを確認することはできない。実際に、歴史上の人物が訪れているということで重要であるが、これが理解できるように養成することは容易ではない。そこで、実際に「Web」茶豆を使った解析を実施した結果を表1に示す。これにより、品詞、語彙素、読み方、活用形などが分かる。この結果を確認し、分からない語彙などについては辞書を用いることで、古典のテキストの理解が進むと考える。

## 7. 終わりに

以上、伝統的な言語文化の教材開発について、ICT の活用の可能性について検討を行った。今後は、実際の運用について、どのような問題点があるか運用時の注意点、教材開発を行うテキストの単語集の作成など、実践に向けた取り組みをすすめていきたい。

### 注

- 1) 内藤一志：古典領域における実践研究，国語科評価論に関する研究と成果の展望，国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ，225-232，溪水社，2022
- 2) 望月善次：提案 3 国語科に求められる教師像，日本教師教育学会年報，15，151-153，2006
- 3) 高橋邦伯・渡辺晴美：シリーズ国語授業作り 中学校古典一言語文化に親しむ一，東洋館出版社，2018
- 4) 文部科学省教育課程企画特別部会：教育課程企画特別部会における論点整理について，35，[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf)，2015
- 5) 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編，2017
- 6) 同注 1
- 7) 西川学：小学校国語科における伝統的な言語文化教育の現状と課題:現行の小学校国語科検定教科書の比較からわかること，研究論集，107，105-121，2018
- 8) 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに幼稚園教育要領の全部を改正する告示，小学校学習指導要領の全部を改正する告示及び中学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について（通知）平成 29 年 3 月 31 日」，(5) 小・中学校の教育内容の主な改善事項 [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_1_1.pdf)
- 9) 内藤一志：全国大学国語教育学会編 古典領域における実践研究，国語科教育学研究の成果と展望，225-232，溪水社，2022
- 10) 国立国語研究所：<https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/>
- 11) 河内昭浩：新しい古典・言語文化の授業—コーパスを活用した実践と研究—，朝倉書店，2019
- 12) 堤智昭，小木曾智信：複数の UniDic 辞書による形態素解析支援ツール「Web 茶まめ」の実装と運用，情報処理学会論文誌，64(3)，749-757，2023
- 13) 小木曾智信，小町守，松本裕治：歴史的日本語資料を対象とした形態素解析，自然言語処理，20 (5)，727-748，2013
- 14) 光村図書：小学校国語 学習指導書 3 下あおぞら，2020
- 15) 小沢正夫，松田成穂：新編日本文学全集 11・古今和歌集，小学館，1994
- 16) 山陽新聞社：『岡山県大百科事典』，山陽新聞社，1980

表 1 山家集 1145 番歌 Web 茶まめ結果

辞書	書字形 (=表層 形)	語彙素	語彙素読み	品詞	活用型	活用形	発音形出 現形	仮名形出 現形	語種	書字形 (基本形)	語形(基本 形)
中世文語	西国	西国	サイコク	空白			サイコク	サイコク	記号	西国	サイコク
中世文語	へ	へ	へ	名詞-普通名詞-一般			エ	へ	和	へ	へ
中世文語	修行	修行	シュギョウ	名詞-普通名詞-サ変可能			スギョウ	スギョウ	漢	修行	スギョウ
中世文語	し	為る	スル	動詞-非自立可能	文語サ行変格	連用形-一般	シ	シ	和	す	ス
中世文語	て	て	テ	助詞-接続助詞			テ	テ	和	て	テ
中世文語	まかり	罷る	マカル	動詞-一般	文語四段-ラ行	連用形-一般	マカリ	マカリ	和	まかる	マカル
中世文語	ける	けり	ケリ	助動詞	文語助動詞-ケリ	連体形-一般	ケル	ケル	和	けり	ケリ
中世文語	をり	折	オリ	名詞-普通名詞-副詞可能			オリ	ヲリ	和	をり	オリ
中世文語	、	、	、	補助記号-読点					記号	、	、
中世文語	こじま	ゴジマ	ゴジマ	名詞-固有名詞-地名-一般			ゴジマ	ゴジマ	固	こじま	ゴジマ
中世文語	と	と	ト	助詞-格助詞			ト	ト	和	と	ト
中世文語	申す	申す	モウス	動詞-非自立可能	文語四段-サ行	連体形-一般	モウス	モウス	和	申す	モウス
中世文語	所	所	トコロ	名詞-普通名詞-副詞可能			トコロ	トコロ	和	所	トコロ
中世文語	に	に	ニ	助詞-格助詞			ニ	ニ	和	に	ニ
中世文語	、	、	、	補助記号-読点					記号	、	、
中世文語	八幡	八幡	ヤワタ	名詞-普通名詞-一般			ヤワタ	ヤワタ	和	八幡	ヤワタ
中世文語	の	の	ノ	助詞-格助詞			ノ	ノ	和	の	ノ
中世文語	いはは	祝う	イワウ	動詞-一般	文語四段-ハ行	未然形-一般	イワフ	イハハ	和	いはは	イワウ
中世文語	れ	れる	レル	助動詞	文語下二段-ラ行	連用形-一般	レ	レ	和	る	ル
中世文語	たまひ	給う-尊敬	タマウ	動詞-非自立可能	文語四段-ハ行	連用形-一般	タマイ	タマヒ	和	たまふ	タマウ
中世文語	たり	たり-完了	タリ	助動詞	文語助動詞-タリ-完了	連用形-一般	タリ	タリ	和	たり	タリ
中世文語	ける	けり	ケリ	助動詞	文語助動詞-ケリ	連体形-一般	ケル	ケル	和	けり	ケリ
中世文語	に	に	ニ	助詞-格助詞			ニ	ニ	和	に	ニ
中世文語	、	、	、	補助記号-読点					記号	、	、
中世文語	こもり	籠もる	コモル	動詞-一般	文語四段-ラ行	連用形-一般	コモリ	コモリ	和	こもる	コモル
中世文語	たり	たり-完了	タリ	助動詞	文語助動詞-タリ-完了	連用形-一般	タリ	タリ	和	たり	タリ
中世文語	けり	けり	ケリ	助動詞	文語助動詞-ケリ	終止形-一般	ケリ	ケリ	和	けり	ケリ
中世文語	、	、	、	補助記号-読点					記号	、	、
中世文語	とし	年	トシ	名詞-普通名詞-副詞可能			トシ	トシ	和	とし	トシ
中世文語	へ	経る	ヘル	動詞-一般	文語下二段-ハ行	連用形-一般	へ	へ	和	ふ	フ
中世文語	て	て	テ	助詞-接続助詞			テ	テ	和	て	テ
中世文語	又	又	マタ	副詞			マタ	マタ	和	又	マタ
中世文語	そ	其	ソ	代名詞			ソ	ソ	和	そ	ソ
中世文語	の	の	ノ	助詞-格助詞			ノ	ノ	和	の	ノ
中世文語	やしろ	社	ヤシロ	名詞-普通名詞-一般			ヤシロ	ヤシロ	和	やしろ	ヤシロ
中世文語	を	を	ヲ	助詞-格助詞			ヲ	ヲ	和	を	ヲ
中世文語	見	見る	ミル	動詞-非自立可能	文語上一段-マ行	連用形-一般	ミ	ミ	和	見る	ミル
中世文語	ける	けり	ケリ	助動詞	文語助動詞-ケリ	連体形-一般	ケル	ケル	和	けり	ケリ
中世文語	に	に	ニ	助詞-格助詞			ニ	ニ	和	に	ニ
中世文語	、	、	、	補助記号-読点					記号	、	、
中世文語	松	松	マツ	名詞-普通名詞-一般			マツ	マツ	和	松	マツ
中世文語	ども	共	ドモ	接尾辞-名詞的-一般			ドモ	ドモ	和	ども	ドモ
中世文語	の	の	ノ	助詞-格助詞			ノ	ノ	和	の	ノ
中世文語	ふるき	古い	フルキ	形容詞-一般	文語形容詞-ク	連体形-一般	フルキ	フルキ	和	ふるし	フルシ
中世文語	に	に	ニ	助詞-格助詞			ニ	ニ	和	に	ニ
中世文語	なり	成る	ナル	動詞-非自立可能	文語四段-ラ行	連用形-一般	ナリ	ナリ	和	なる	ナル
中世文語	たり	たり-完了	タリ	助動詞	文語助動詞-タリ-完了	連用形-一般	タリ	タリ	和	たり	タリ
中世文語	ける	けり	ケリ	助動詞	文語助動詞-ケリ	連体形-一般	ケル	ケル	和	けり	ケリ
中世文語	を	を	ヲ	助詞-格助詞			ヲ	ヲ	和	を	ヲ
中世文語	み	見る	ミル	動詞-非自立可能	文語上一段-マ行	連用形-一般	ミ	ミ	和	みる	ミル
中世文語	て	て	テ	助詞-接続助詞			テ	テ	和	て	テ
中世文語	むかし	昔	ムカシ	名詞-普通名詞-副詞可能			ムカシ	ムカシ	和	むかし	ムカシ
中世文語	見	見る	ミル	動詞-非自立可能	文語上一段-マ行	連用形-一般	ミ	ミ	和	見る	ミル
中世文語	し	き	キ	助動詞	文語助動詞-キ	連体形-一般	シ	シ	和	き	キ
中世文語	松	松	マツ	名詞-普通名詞-一般			マツ	マツ	和	松	マツ
中世文語	は	は	ハ	助詞-係助詞			ハ	ハ	和	は	ハ
中世文語	おい	於く	オク	動詞-一般	文語四段-カ行	連用形-イ音便	オイ	オイ	和	おく	オク
中世文語	木	木	キ	名詞-普通名詞-一般			キ	キ	和	木	キ
中世文語	に	に	ニ	助詞-格助詞			ニ	ニ	和	に	ニ
中世文語	成り	成る	ナル	動詞-非自立可能	文語四段-ラ行	連用形-一般	ナリ	ナリ	和	成る	ナル
中世文語	に	ぬ	ヌ	助動詞	文語助動詞-ヌ	連用形-一般	ニ	ニ	和	ぬ	ヌ
中世文語	ける	けり	ケリ	助動詞	文語助動詞-ケリ	終止形-一般	ケリ	ケリ	和	けり	ケリ
中世文語	我	我	ワレ	代名詞			ワレ	ワレ	和	我	ワレ
中世文語	が	が	ガ	助詞-格助詞			ガ	ガ	和	が	ガ
中世文語	とし	年	トシ	名詞-普通名詞-副詞可能			トシ	トシ	和	とし	トシ
中世文語	へ	経る	ヘル	動詞-一般	文語下二段-ハ行	連用形-一般	へ	へ	和	ふ	フ
中世文語	たる	たり-完了	タリ	助動詞	文語助動詞-タリ-完了	連体形-一般	タル	タル	和	たり	タリ
中世文語	ほど	程	ホド	名詞-普通名詞-副詞可能			ホド	ホド	和	ほど	ホド
中世文語	も	も	モ	助詞-係助詞			モ	モ	和	も	モ
中世文語	しら	知る	シル	動詞-一般	文語四段-ラ行	未然形-一般	シラ	シラ	和	しる	シル
中世文語	れ	れる	レル	助動詞	文語下二段-ラ行	連用形-一般	レ	レ	和	る	ル
中世文語	て	て	テ	助詞-接続助詞			テ	テ	和	て	テ